

いよいよ1学期も残すところあと4日となりました。暑い日が続きますが、残り4日間がんばっていきましょう。校長先生の言葉は皆さんの心に届いていますか？

今週のいいところ見つけたよ(8)ですが、この間、校長先生がいつものように、校内をうろうろしていますと、4年生が自習をしていました。担任の先生が少し席をはずして、いなかったせいか、少しだけざわざわしていました。すると、あるお友だちが「今、授業中だから静かにして!」とみんなに注意をしていました。すばらしいですね。授業中だから静かにする。当たり前のことを、当たり前と言えるのは、とてもいいことです。また、お友だちに注意するというのは、本当の勇気がないとできません。4年生よくがんばっていました。

それと少し遅くなったのですが、6月18日の全市公開授業では6年2組が、大宮西小を代表して、中心授業の国語を本当によくがんばっていました。他の学校の先生からも、たくさん褒められていました。2学期にもまた公開授業がありますので、みなさん次の代表学級となることをめざしてがんばっていきましょう。

先週のお題は「なぜ一番古い漢字は「占」なのでしょう。」でした。

みなさんの考えでは、「占いがはやっていたから」とか、「ひみこもしていた」などもありました。今回は難しいという声も聞こえてきましたね。

では、一緒に考えていきましょう。

もともと、昔の中国では、話す言葉はありませんでしたが、漢字などの文字はなかったのです。もし、今の日本で漢字やひらがななどの全ての文字がなかったら、どんな困ったことがおこるのでしょうか？たとえば、学校で文字が使えないとなったら便利ですか？不便ですか？少しまわりの人と聞き合ってみてください。

どんな意見ができましたか？めちゃくちゃ不便で

すよね。たとえば、連絡帳。明日の持ちものは、先生が話す、それをみなさんは聞いて全部覚えなといけません。不可能ですね。

教科書もノートもありません。ラッキーと思った人はいませんか？漢字ドリルも宿題もなくなる、なんてすばらしいことだと思った人はいませんか？ところがよく考えてください。教科書もノートもなくて、勉強ができますか？連絡帳と同じで、先生が話されたことを全て頭で覚えなくてはいけないのですよ。

そう、文字というのは、知識や知恵、情報など人が考えたものを、ずっと残しておけるととても便利なものなのです。

では、宿題の答えですが、このように、文字、漢字は何かを残したいときにとても便利なものでした。では昔の中国で絶対に残しておきたいものって何でしょう。それが占いだっただけです。しかも、王様が行う占いを書き残すために、漢字ができたと言われています。

ところで、その王様はなぜ王様と呼ばれ、国民のみんなから尊敬されていると思いますか。どんな人が王様になると思いますか。少しまわりの人と聞き合ってみてください。

力の強いひとでしょうか？大金持ちでしょうか？一番賢かった人でしょうか。実は昔の中国では、占いが上手にできた人が王様になっていたようなのです。占いぐらいでなれるのと思うかもしれませんが、実は当時の占いは人の命を守るとても大切なもので、よく当たる占いができる人は、みんなからとても尊敬されていたのです。

たとえば、「あと10日もすれば、たくさん雨が降るぞ。すると川が氾濫して、家も畑もみんな流されてしまう。そうならないよう、高いところに避難しておきなさい。」と占います。実際10日もすると本当に雨がたくさん降って川が氾濫して大変なことになりましたが、占い通りにみんな高いところに避難していたので助かりました。占いは人の命を救う、とても大切なものだったのです。

で、この占いですが、文字のなかったころは、どうだったか想像できますか。占いの結果を口で言うだけだったらどうなると思いますか。本当に10日後に雨が降っても、王様が本当に10日前に占っていたことが証明できないのです。「王様、10日前に本当にそんなこと言っていたか？」と、疑う人もいたかもしれません。皆さんにもこんなことはありませんか。ちゃんと紙に書いておかないと、言った言っていないでもめることって今でもよく起こります。そこで、王様はそれを防ぐために、亀の甲羅を使って占いをして、そこに10日後に雨が降るとはっきり漢字で書いたのです。これならば、10日後本当に雨が降ったとき、「王様が10日前に書いていた占いどおりだ！」とみんなが尊敬しますよね。

なぜ最初の漢字が「占い」なのは、王様がみんなの尊敬を集めるために、書き残す必要があったからということです。

では、今週のお題です。昔の中国の王様はどうして、もうすぐ大雨が降るとか、そろそろ寒くなるぞなどの占いができたのでしょうか？もちろん、テレビもインターネットも天気予報も無い時代です。こうかなあと考えた人は、校長室前のボードに書きにきてください。

今日も最後まで聞いていただき、ありがとうございました。